

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	開館日数	日	目標	307.00	307.00	307.00
	基本開館日数を307日（365日－（休館日52日＋年末年始休6日））と定義		実績	307.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	来館者数	人	目標	4,000.00	4,500.00	4,500.00
	観光案内及び着付け体験に訪れた来館者数		実績	4,127.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	高齢化に伴い公共交通（列車）を利用した観光客も多く、駅前に観光案内所を設置することは妥当である。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	現在、観光ボランティア協会に管理運営を委託しているが、運営方法について検討の必要がない訳でもない。また、同協会がボランティア団体ゆえに「稼げる観光」に関しての意識が薄く、観光客の消費につながっていない部分もある。
	手段の妥当性	A 妥当である	駅前に観光案内所を設置すること、現時点において案内を担えるのは観光ボランティア協会しか存在しない。しかしながら、着付け体験が好調であることから徐々に手狭になりつつあり、現況の2事業併設については検討の余地はある。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	質の是非はあるものの現在の経費で観光案内所を運営できているのは効率的である。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	全般的には特に不公平感はない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	観光ボランティアの質については、ボランティア団体であることから多くを望めないのが現状である。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	観光ボランティア協会と着楽会との連携に加え、観光物産センターとの連携など検討の余地はある。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
観光案内所の管理運営は観光ボランティア協会に委ねるしかないのが現状である。しかしながら観光の振興は商業の振興と表裏一体であること、本市が推進する結城紬の着付け体験事業のさらなる推進に加え、別事業（観光振興事業）になるが、観光物産センターの運営など、結城駅前の3団体2施設の検討を図る必要がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
観光案内所と観光物産センターの今後の運営に関して、観光ボランティア協会・着楽会・物産協会が話し合いの場を設ける。また、インバウンドへの対応を進めるため、観光ボランティア協会会員のスキルアップ若しくは、別途多言語対応可能な案内人の設置を検討する。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） ボランティアガイドの質の向上と平準化、新たな人材の確保など内容を充実しながら継続していく。場所についても同居する「着楽会」と協議をしながら双方が納得できる方法を模索していく。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。